

千刈狸の呟き

最近、千刈あたりの狸穴周辺でも、クマの出没がうわさされる。アナログ狸は御幼少のみぎりから親父狸に引っ張られて、富士山などを徘徊していた猛者であり、今も山中に時々出没する。だから、クマなる未知との遭遇は、普通の狸より頻度が高いはずだった。しかし、こここのところ、アーバンベアなるお上りさんのクマが多くなったせいか、山奥にはクマの気配が少なくなり、街中などのとんでもないところでみかけるらしい。以前は山に入る入口あたりにクマ出没注意の看板がたくさんあったのだが、最近では田んぼのど真ん中とかに立っている。クマの餌といえば、春のタケノコ、夏の木の葉、秋のブナの実が定番であるが、最近ではコメを好むクマが増えているらしい。そのため、田んぼにクマというシチュエーションが定番化し、納屋を荒らすクマやら、風除室（農家がコメを置いていることが多い）に入り込むクマが日常化している。そのうち、コイン精米機の周辺にぬかの匂いに誘われたクマがうろつくのではないかと懸念される。

クマは様々なことを学習するらしく、ラジオの音に寄ってくるクマが増えているらしい。これは山菜採りが、クマ除けと、位置確認のためにラジオを鳴らしっぱなしにして、弁当を置いていたことから、ラジオの音が鳴っているところには、餌があると学習したらしい。クマ除けの定番といえば、クマ鈴だが、最近ではクマ鈴の音がする方向に餌があると寄ってくるクマもいるらしい。実際、秋田県内でもクマ鈴をつけた登山者がクマに襲われている。クマもいろいろ個性があって、一筋縄ではいかないことを肝に銘じておく必要がある。

～ 熊、クマ、くま～？ ～

アナログ狸

タケノコはアナログ狸の好物であるが、クマと奪い合いする気はないので、その季節には、君子、危うきに近寄らず、を決め込むことにしている。タケノコの不作の年に林道を車で走っていたら、タケノコ採りが林道わきに止めておいた軽トラのすぐ横からクマが飛び出してきて、危うくひきそうになったことがある。タケノコ採りの上前を撥ねるためにクマが軽トラの横で待っていたわけで、なんとも恐ろしいことだ。

クマと山の中であっても、普通はクマの方が逃げていく。しかし、街中にいるクマはすでに興奮状態のために、攻撃的になっていることが多く、襲われる可能性が高いそうだ。また子連れも常に緊張状態なので、危険だ。一度、釣りが終わって川から斜面を上がってきたら、子クマが逃げていったことがある。その方向には親クマがいる可能性が高く、斜面をもう一度降りなおして、川を大きく移動してから、上がりなおした。君子、危うきに近寄らず、クワバラ、クワバラ。

